

別紙

J F Eスチール株式会社 西日本製鉄所 福山地区 温室効果ガス削減実施状況報告書

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

J F Eスチール株式会社 西日本製鉄所 福山地区

(2) 事業所の所在地

広島県福山市鋼管町1番地

(3) 業種

2311 高炉による製鉄業

2 計画の期間

本計画の期間は、平成2(1990)年度を基準とする
平成20(2008)年度～平成24(2012)年度までとする。

3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況

《排出量を削減目標とする場合》 単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度実排出量(a)	目標年度 上段：見込量(b) 下段：削減率(c)	計画期間の実績 (上段：実排出量(d)，下段：削減量の対基準年度比(e))				
	平成2年度	平成24年度	平成23年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度
エネルギー 起源CO ₂	55.3百万 t-CO ₂ 注1, 注2	50.3百万 t-CO ₂ 注1 9% 注1	55,181,174 t-CO ₂ 注1 0.2% 注1				
非エネルギー 起源CO ₂			1,700,020 t-CO ₂ 注1				
メタン							
一酸化二窒素							
フロン類							
温室効果ガス 実排出量総計							
温室効果ガス みなし排出量							
実績に対する 自己評価	平成23年度のエネルギー起源CO ₂ 排出量は設備投資や操業改善による省エネ促進を図ったが、生産量の増加に伴い、△0.2%減(対平成2年度比)となり、エネルギー起源CO ₂ 排出量削減目標である△9%減を達成できなかった。尚、経団連における排出係数変更後のエネルギー起源CO ₂ 排出量 ^{注2} と比較すると△5%減(対平成2年度比)となっている。						

※ 削減率(c) = ((b) - (a)) / (a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a) - (d)) / (a) × 100

注1) 上記数値はJFEスチール(全事業所)における削減計画・実績

注2) 平成2年度のエネルギー起源CO₂排出量は経団連における排出係数変更前の排出量である。

尚、経団連における排出係数変更後の平成2年度エネルギー起源CO₂排出量は58.1(百万t-CO₂)である。

《原単位を削減目標とする場合》 原単位算定に用いた指標：粗鋼量(t)

温室効果ガスの種類	基準年度の実績(a)	目標年度 上段：目標(b) 下段：削減率(c)	計画期間の実績 (上段：原単位実績(d)，下段：削減量の対基準年度比(e))				
	平成2年度	平成24年度	平成23年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度	平成 年度
エネルギー 起源CO ₂							
非エネルギー 起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
フロン類							
温室効果ガス 総排出量							
エネルギー消費原 単位(原油換算kl)	0.730 ^{注3} kl/t		0.601 ^{注3} kl/t 17.7% ^{注3}				
実績に対する 自己評価							

※ 削減率(c) = ((b) - (a)) / (a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a) - (d)) / (a) × 100

注3) 上記数値はJFEスチール(全事業所)における実績

4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	削減量等	具体的な取組み
1	燃料ガスの削減	単位粗鋼量あたりの CO2排出原単位約△22%削減 (対平成2年度比)	加熱炉能力向上 排熱回収設備の改善
2	省電力の推進		ポンプ・ブロワ省電力 (低揚程化、回転数制御) 省圧空活動
3	設備高効率化		設備更新時に設備高効率化
4	操業最適化		能率アップによる固定ロス削減

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

○ その他の取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	廃棄物排出量の削減	数値目標は設定せず	・両面コピー、裏面利用等 ・分別収集及び資源化の徹底
2	環境家計簿	数値目標は設定せず	・毎月家庭のCO2排出量実績フォロー
3	その他	数値目標は設定せず	・公道清掃奉仕活動の実施

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。